



京都外国語大学
京都外国語短期大学
学長 松田 武

ご挨拶

京都外国語大学は創立者森田一郎・倭文子の「日本の再建には教育の再建、特に外国語教育の復活が緊急で、かつ重要な問題である」との発想と強い意志のもとで設立されました。そして、戦争の否定と平和に賭ける強い信念を表象し、「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」を本学園の建学の精神としました。以後この建学の精神を具現化するために、いかなる困難をも克服し、初志を貫く「不撓不屈」の精神を備えた国際人の育成に努めています。

今般、文部科学省から優れた取り組みであるとして選定された「異文化間就業力の育成」事業は「言語を通して世界の平和を」という教育理念に脈略化されたものであり、不確実性の高い今後のグローバル社会を「不撓不屈」の精神で生き抜く力を養うことを目的としたものです。グローバル化の社会では、高度な外国語の運用能力はもちろんのこと、国際情勢およびその背景にある歴史や文化などを広い視野から捉える幅広い教養と、外国の人たちと対話し協働して問題解決する能力が求められています。異文化間就業力とは、文化や風土あるいは慣習が異なる組織において、異文化間問題を発見する感性、言語・非言語コミュニケーション能力、協働を可能にする行動スキルを統合し、自国文化に誇りをもって摩擦から調和への変容を起こすことが出来る能力であると定義しております。従って、第一回目のシンポジウムでは「多国籍人材との協働」をテーマに掲げ、基調講演を「アジア太平洋の安定と平和」に手腕を発揮された元外務事務次官の谷内正太郎氏にお願いし「アジア太平洋時代の日本外交」について語っていただきます。また第二回目のシンポジウムでは「伝統文化と異文化の包摂」をテーマにし、基調講演は内閣総理大臣菅直人氏のご令室で数内流師範の菅伸子氏に日本の伝統文化である「茶の湯と私」についてお話をいただきます。このシンポジウムを起点として「異文化間就業力の育成」事業では、BRICS 諸国初め世界各地に多くの学生を派遣し海外フィールドワークやインターンシップを経験させます。これによって本学学生がさらにグローバル社会で活躍できるよう高度人材育成に取り組んでまいります。

結びに、皆様のご協力により本取り組みが世界の平和と繁栄に資するものとなりますよう、また、本シンポジウムを意義あるものとしていただきますようお願いしてご挨拶とさせていただきます。

「異文化間就業力の育成」 シンポジウム

場所

京都外国語大学 森田記念講堂

2010年(平成22年)12月11日(土) 15:30~17:30

開会挨拶: 松田 武 (京都外国語大学学長)

基調講演

アジア太平洋時代の日本外交

講師



● 谷内 正太郎氏

昭和19年1月6日生(66歳) 出身地: 富山県

昭和44年 3月 東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了
同年 4月 外務省 入省
平成20年 1月 外務省 退職
平成21年 1月~9月 政府代表

この間本省では、アジア局、北米局、条約局(4回)、人事課長、条約局長、総合外交政策局長、内閣官房副長官補、外務事務次官。
在外では、在アメリカ大使館(2回)在フィリピン大使館、在EC代表部勤務、及び在ロスアンジェルス総領事。

現職 早稲田大学日米研究機構日米研究所教授
慶應義塾大学大学院SDM研究科教授
東京大学大学院総合文化研究科客員教授

【著書】

「多様化する国際的脅威と日本の対応」
(田中昭彦監修・『新しい戦争』時代の安全保障)所収、都市出版
「外交の戦略と志」(産経新聞出版)
「オバマ新政権と日米関係」
(藪下史郎監修・「世界政治経済と日本・米国・中国」所収、東洋経済新報)

パネルディスカッション

多国籍人材との協働 (Diversity Management)

パネリスト

- 谷内 正太郎氏 (元外務事務次官)
- 市川 とみ子氏 (外務省 経済局政策課長)
- 平井 昌博氏 (日本貿易振興機構 <JETRO> 総務部長)
- 渡邊 正人氏 (国際協力機構 <JICA> 総務部長)

コーディネーター

- 池崎 宏昭 (京都外国語大学キャリアサポートセンター長)

閉会挨拶: 久保 哲男 (京都外国語大学副学長)

総司会: 堀内 呉代 (キャリアサポートセンター東京オフィス 就職支援委員)